

色んな思いが交差する海
だけど、今日の喜びは
君たちの支えになってくれるよ
きっと

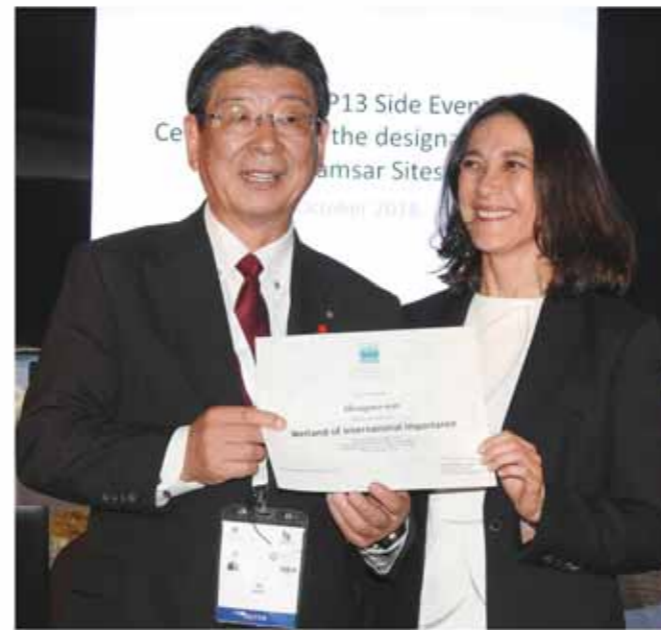




調査の様子※1

志津川湾が潜在候補地に選定された背景には、以前から南三陸町を訪れた多数の研究者や町の職員による研究成果が蓄積されていたという経緯があります。これまでの地道な調査から、志津川湾には、動物553種、海藻・海草類208種の生息が確認され、生物多様性の高さが科学的に示されています。

これらの活動の成果が実を結び、2018年10月18日、志津川湾はラムサール条約事務局が管理する「国際的に重要な湿地に係る登録簿」に正式に掲載されることになりました。



環境省提供



特集

南三陸町の海「志津川湾」がラムサール条約湿地に登録されました

10月18日、歌津・志津川・戸倉の海域を含む南三陸町の海「志津川湾」が、ラムサール条約湿地として正式に登録されました。そして同月23日にドバイ（アラブ首長国連邦）で開催されたラムサール条約締約国会議において、認定証が授与されました。日本で52番目のラムサール条約湿地です。東北地方では初の海域の条約湿地であり、海藻の森＝藻場の貴重さが認められての登録は国内で初めてとなります。

志津川湾のラムサール条約湿地への登録は、町内外そして全国の多くの方々にご協力をいただき実現しました。

今回は、志津川湾がラムサール条約に登録されるまでの活動やこれからの取り組みなどを紹介します。

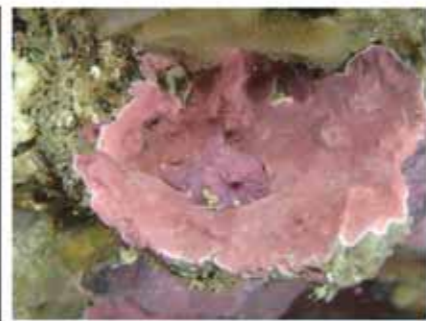


ラムサール条約湿地登録への流れ

年	月	日	出来事
1979	3	30	南三陸金華山国定公園 指定
2001	12	27	志津川湾 環境省「日本の重要湿地500」に選定
2010	9	30	志津川湾 環境省「ラムサール条約湿地潜在候補地」に選定
2011	3	11	東日本大震災発生
2013	5	24	陸中海岸国立公園 三陸復興国立公園へ改称
2015	3	31	南三陸金華山国定公園 三陸復興国立公園へ編入
2016	10-12	月	登録に向けての住民説明会（全18回）開催
2016	12	18	南三陸の森・里・海とラムサールシンポジウム 開催
2017	3	27	南三陸町から環境省へ登録の申し入れ
2018	1	30	南三陸町ラムサール条約シンポジウム 開催
2018	3	27	南三陸町沿岸（志津川湾） 三陸復興国立公園 海域公園地区に指定
2018	10	18	志津川湾 ラムサール条約湿地に登録
2018	10	23	ラムサール条約締約国会議にて認定証授与 in ドバイ（アラブ首長国連邦）



ソメワケウミクワガタ



ダンゴウオ



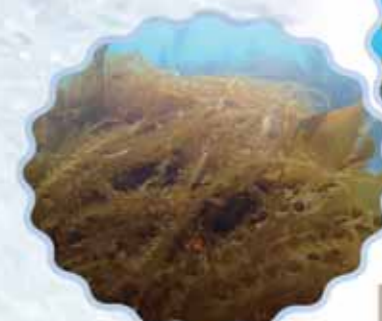
クチバシカジカ

これまでの取り組み

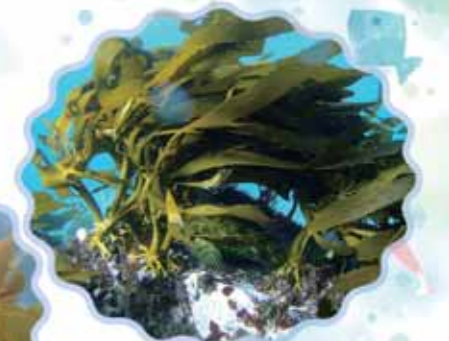
ラムサール条約湿地登録への取り組みは、志津川湾が2010年9月に環境省のラムサール条約潜在候補地に選定されたことに始まります。寒流と暖流両方の影響をバランスよく受ける志津川湾は、冷たい海に住むコンブの仲間「マコブ」と暖かい海に住むコンブの仲間「アラメ」が作る海藻の森（藻場）が共に見られる珍しい海です。志津川湾はマコブの分布の南限に近く、またアラメの分布の北限に近いことから、世界的にも貴重な環境となり、このことが、ラムサール条約潜在候補地に選ばれた理由の1つです。

しかし、翌年2011年3月11日、東日本大震災により南三陸町は大きな被害を受けました。そのため、登録に向けた活動を中断せざるを得ませんでした。震災から5年後の2016年には、ラムサール条約湿地への登録へ向けた活動が再開されました。住民説明会やシンポジウムでは、多くの皆さんからの賛意をいただきました。

また、南三陸町の豊かな自然を生かした持続可能なまちづくりの一環として、志津川湾の豊かさを未来の世代に伝えていくためのさまざまな教育・啓発活動も実施してきました。



マコブ



アラメ



2016年「南三陸の森・里・海とラムサールシンポジウム」の様子



2018年「南三陸町ラムサール条約シンポジウム」の様子

日本のラムサール条約湿地

今回のラムサール条約締約国会議により、南三陸町の志津川湾と東京都の葛西海浜公園が新たに登録され、日本のラムサール条約湿地は52カ所となりました。

宮城県内には志津川湾のほか伊豆沼・内沼（栗原市・登米市）、蕪栗沼・周辺水田（栗原市・登米市・大崎市）、化女沼（大崎市）の3つのラムサール条約湿地があります。東北地方にはこれ以外に仏沼（青森県三沢市）、大山上池・下池（山形県鶴岡市）、尾瀬（福島県檜枝岐村など）がラムサール条約湿地に登録されています。

こうした条約湿地と肩を並べ、志津川湾も「世界の志津川湾」となりました。今後、国内はもとより世界の条約湿地との交流を深め、その魅力や価値を発信し、再確認していくことが期待されます。



ラムサール条約湿地位置図

KODOMOラムサールin南三陸町の開催

志津川湾がラムサール条約湿地に登録されたことを記念して、平成31年2月9日(土)から11日(月・祝)まで「KODOMOラムサールin南三陸町」を開催します。

KODOMOラムサールとは、全国のラムサール条約湿地で活動する子どもたちが集まり、湿地をテーマにさまざまな交流・学習のイベントを行う環境教育プログラムのことです。これまで、日本各地のラムサール条約湿地で開催されてきました。各地の湿地の情報を交換したり、自然や文化を学び、体験するプログラムを通して、開催地の良いところや魅力＝「宝」を見つけていきます。

KODOMOラムサールin南三陸町では、町の子どもたちと全国の湿地で活動する子どもたちが一緒に、南三陸町の魅力が詰まったプログラムを体験します。町内の子どもたちが全国各地で活動する子どもたちからさまざまな刺激を受け、幅広い視野を持つとともに、自分たちの住む町の自然の素晴らしさを実感する貴重な経験となるはずですよ。

町では、KODOMOラムサールの開催に向けて、今年の7月26日(木)に「KODOMOラムサール夏休みイベント」を実施しました。町内の子どもたちが実際に漁船に乗り、定置網の網揚げや魚拓体験、捕った魚の試食などを通して五感で南三陸町の自然を体験しました。11月には、イベント第2段として南三陸町の秋の味覚「サケ」をテーマにした「KODOMOラムサール秋イベント」を実施します。

KODOMOラムサールと併せて、環境に関心のある小学生の皆さんの参加をお待ちしています。



(写真上下)KODOMOラムサール湿地交流in荒尾干潟の様子



KODOMOラムサール夏休みイベントの様子

KODOMOラムサール秋イベント

開催日：11月23日(金・祝)

KODOMOラムサールin 南三陸町

開催日：平成31年2月9日(土)～11日(月・祝)【2泊3日】

参加対象：環境に関心のある小学4～6年生

農林水産課水産産業振興係 ☎46-1378 / F A X 46-5348

なお、KODOMOラムサールや秋イベントについての詳細は、後日町内の各小学校を通じてお知らせするとともに、町のホームページでも情報を掲載します。

これからの活動



ラムサール条約は、湿地を守ることだけが目的ではありません。湿地を賢く利用し、交流・学習に役立てることによって、これまで以上に自然と手を取り合って暮らしていく＝「共生」していくことが大切な目標となります。「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」という南三陸町の将来像へ向けて、強く後押しする強い味方になるはずですよ。

志津川湾の豊かな恵みを未来の世代に残していくために、私たちに何ができるのか、地域全体で考え、行動していくことが求められます。

画像提供 ※1：青木優和 イラスト：浜口とり



漁師 高橋 直哉さん

南三陸の海の豊かさが世界に認められたことはうれしいですね。あらためて志津川湾の特徴が素晴らしいんだと感じています。

現在、養殖業の傍らホタテ・ホヤ・ワカメの漁業体験を行っています。漁業体験や釣りはどこでもできますが、その中で南三陸町を選んでもらうためには特徴を生かした付加価値が必要です。今回の登録によって藻場の豊かさが証明されました。藻場が豊かであれば、そこが魚たちの産卵場所になります。小魚が生まれ、その周りには小魚を食べる大きな生き物たちも集まってきます。また、藻場が豊かであれば海藻を食べるウニやアワビなどもおいしくなります。こういった良い環境が養殖している海産物にも影響してくるので、世界に認められた場所で育った海産物をPRするとともに、観光にもつなげていきたいですね。



宮城県漁業協同組合志津川支所青年部 部長 佐藤 一弥さん

ラムサール条約登録って聞いても実際はピンときていないんですよ。漁師仲間にも聞いたが、「あっ、そうなの!？」っていうくらい実際は分かっているじゃないですか。ただ、私たち漁協青年部が行っているウニの駆除活動や磯焼調査とかが実になって、評価されたのだと思っています。その手助けになったことは、正直うれしく思います。

今後は、このラムサール条約登録を受けて、部員たちがウニの駆除活動や磯焼調査に対するモチベーションが上がるようにしていきたいです。あと、私はワカメの養殖をやっているのですが、ラムサール条約登録地「志津川湾」で採れたワカメやカキ、ホヤ、ギンザケといった魚介類を世間の人たちに知ってほしいですね。



志津川高校自然科学部 元部長 渡辺 柗真さん

自分が住んでいる地域の自然が世界に認められてうれしく思います。

私たちの部は、干潟の生物調査をメインで行っています。昨年は松原干潟で約70種類の生物を発見しました。中にはレッドリストの生物も10種類以上発見されました。今年は八幡川と松原干潟の調査を実施。南三陸町は、よその干潟と比較しても多くの生物が生息しており、自然豊かな町だということが分かりました。

今後は、生物調査の継続とともに、これまで2回だった調査を、季節ごとの調査であったり、数か月おきの調査を実施していきたいです。また、町内に干潟は数カ所ありますが、これらの干潟の調査を行い、松原干潟と他の干潟では生息している生物に差があるのか、比較をしていきたいです。

皆さんの喜びの声



南三陸ネイチャーセンター友の会 会長 鈴木 卓也さん

県内で最初にラムサールに登録されたのは、伊豆沼・内沼です。1985年、私が中学2年生のときでした。そこから30年が経過し、志津川湾が伊豆沼・内沼と肩を並べたというのは感慨深いですね。この町には小学生・中学生を対象にした志津川愛鳥会があって、私も所属しています。愛鳥会は昭和20年代から活動してきた団体で、そういった団体活動の積み重ねがあったのが登録要因の一つだと思っています。今後は、産業分野で生かしていくことも大事ですし、教育や自然体験で生かすことも大事です。私たちの会では毎年夏に「子ども自然史ワークショップ」をやっています。そういったところで、志津川湾の価値とか魅力とかを広めていくための宣伝役を担っていきたいと思います。



一般社団法人サステナビリティセンター 代表理事 太 齋 彰 浩さん

志津川湾が国際的に価値ある場所だと客観的に評価されたことは、大きい。自分の町に誇りが持てる一つになると思います。世界から注目されるので、これまでは漠然と海(志津川湾)であったのが、藻場やコクガンという対象があるから絞りやすくなる。絞らないと環境の変化って捉えられないので、これまでの取り組みを継続する契機になると思います。

私は、南三陸の森里海ひとを題材として、持続可能な社会の実現に向けた次世代リーダーの養成プログラムを提供していますが、南三陸の価値を打ち出すことでそれを目指して来る人が出てくるはずなので、そういう人たちの下に、今回の登録はなると思います。今後は、循環型の取り組みとか人間と海との関係を学ぶ場所として、南三陸を打ち出していきたいですね。



かもめの虹色会議 主宰 工藤 真弓さん

志津川湾がラムサール条約湿地潜在候補地に選ばれていることを震災後に知ってから志津川湾の魅力を生かすようなまちづくりをしたいと思ってきたので、いよいよ認められたという思いがあります。また、海の中には、私たちが知らない豊かさが広がっていて、それらをつつと宝探しするように明らかにしながら、学び合っている場面にきたのかなという思いです。

私たちの会では、町民憲章に書かれている自然の豊かさをアートにするというコンクールを通して、色んな人たちが気軽にまちづくりに参加できるようなきっかけ作りをしています。今後は、ラムサール条約を小学生や中学生など、各世代に合わせて分かりやすく伝える場を作りたいですね。あと、登録されたことで、海が使いやすくなると思っている人がいるので、「そうではないですよ」と教えていかないとだめですね。